

# 平成30年 東北大学前期日程試験【英語】問題分析

## 1 今年（H30）の傾向

総評・講評（大問毎に）

### 【総評】

長文読解2題、対話文読解1題、和文英訳1題。設問数は14と昨年比で1問増であるが、例年とほぼ同様の大問構成であった。

文章全体の分量、読解難度ともに昨年と同水準。受験生ひとりひとりの実力の違いによって設問ごとに感じる難度は異なるであろうが、全体としての難度も例年並みと言える。

大問1、大問2は、英文自体を読み進めることにさほど苦勞はしないかもしれないが、採点官を満足させる答案を作成するとなると、それなりの工夫と時間が必要になる。大問3は、やはり本文の内容は理解しやすいものだが、必要な具体例を挙げてそれに関する自分なりの意見を英語でうまくまとめることができるかどうかポイント。大問4は日本語としては自然な表現を分かりやすい英語にできるかどうか勝負の分かれ目である。

### 【大問分析 I】

「おじ」「おば」の家族内で果たす役割についての文章読解問題。和訳問題2題、説明記述問題2題、選択記号問題(語句言い換え×4)1題という構成。

第1問は和訳。東北大の入試ではお馴染みの長い下線部をわかり易く日本語に表せるか。構文はオーソドックスなものだが、*expectations, activities*を文脈のなかでどう処理するかがポイント。

第2問は指示語の内容説明。形式的なヒントもさることながら、文章全体の主旨と、その中でこの段落が占める役割を吟味した上でなければ合格解答は難しだろう。特に*families*を家族の構成員と捉えられるかが読解上のポイントである、

第3問は下線部訳。*refer to A as B, think of A as B*の構造が見えれば十分だろう。

第4問は下線部説明問題。下線部直後の表現から解答に必要な情報を読み取るとはできるだろうが、それを文章の主旨に沿ったかたちでわかり易く日本語にまと

められるかが重要なポイント。

## 【大問分析Ⅱ】

宇宙の起源の話の皮切りに、生命の起源がいつどこにあるかを問題にした長文読解問題。

### 問 1

下線部和訳問題。構文全体は①Regardless ... of time、②we know...years ago、③when the part...a single atom.の3つの部分から成る。和訳をする際の注意点は3つ。第一に、③の関係副詞の先行詞は a period である（直前の 13.8 billion years ではないので注意）。第二に、③の中の関係代名詞節 that we can see today と分詞句 containing ...、さらに前置詞句 with a diameter ... light years はいずれも③の主語 the part of the Universe を修飾している。最後に、形容詞句 smaller than a single atom は直前の名詞 a region of space を後置修飾している。また、billion（10億）、diameter（直径）といった単語の訳も正確に押さえておきたい。

### 問 2

指示語説明問題（記述）。下線部(B)を含む段落の第2文と第3文前半（butの前まで）では生命の起源が地球にある説が述べられており、この説と対比するかたちで第3文後半（but it is possible以降）では生命の起源が地球外にある説が述べられている。このことに気づけば下線部(B)This theory がさしているのは後者の説であることが見て取れる。

### 問 3

下線部説明問題（記述）。本文を読んだ印象だけで解答を作るのではなく、対応する本文中の情報を根拠として正確な解答を作成したい。

まず第一に、下線部(C)の chemistry と biology の意味を文脈から確定する必要がある。最もわかりやすいのは下線部(C)の直前の that 節（the basic chemistry ... living

things emerged) と当該段落の第3文 (Living things are...) で、ここから chemistry が無生物 (inanimate things)、biology が生命 (living things) にそれぞれ対応していることを読み取る。この文章では「学問の名称」ではないので注意したい。第二に、became で表現されている変化を説明する。変化が可能となるには、共通の基盤があり、そこに何らかの差異が生じる必要がある。この観点から文章を見直すと、当該段落の第3文では chemistry と biology の共通点として「同じ化学的要素」から構成され、「同じ自然法則」に従うことが挙げられている点に気づく。他方で、当該段落の第2文の後半 (but it is worth emphasizing 以降) で biology が「複雑な」chemistry であるという相違点が挙げられている。第三に、こうした変化が起きる場として「地球」に言及しておきたい。というのも、当該段落全体が問2の解答と対比されていた生命の起源を地球に見いだす立場に基づいているからだ (段落第1文 Under the assumption ... に注目)。基本的な解答は以上の3点から作成できる。もし余裕があれば第2段落で「生命の起源に関する議論で大いに実りがあるがゆえにここで定義する価値がある」と述べられている spontaneously にも言及しておきたい。そこでは chemistry が biology に変化する過程を「自然法則のはたらきの結果」として表現している。

#### 問4

文整序問題 (選択)。出来事の順序に注目すれば (ウ) → (エ) の順番はすぐに確定できる (地球が形成される → 形成後の初期は生命がいなかった)。難しいのは後半の順番。(イ) の冒頭 Therefore が前で述べられていた事柄全体を根拠として帰結を導く副詞であることから (ア) → (イ) とすると、(イ) の最初の that 節 (Earth was ... lifeless world) が第4段落前半 (ウとエ) のまとめ、二番目の that 節 (living things ... its formation) が段落後半 (ア) のまとめ、となり整った構成になる。

#### 【大問分析Ⅲ】

私たちの生活を変えた発明についての対話文を読んで設問に答える問題。問1は本文中の空欄に入る適切な語を選択する、昨年度にはなかった問題。空欄は3箇所

あるが、いずれも選択肢に紛れはなく易しい。問 2 は対話文の内容と一致するものを選ぶ選択問題で、5 つの選択肢から一致するものを 2 つ選ぶ。こちらも間違いの選択肢がわかりやすいので、消去法でも正解できる。ただし、内容を十分に理解しているかを試す問題と考えると、2 つとも正解しておくことが望ましい。問 3 は昨年度・一昨年度と同様、対話文で述べられていない発明を、自分で考えなければならないが、本文で述べられている発明は 3 つだけなので、選択の幅は広い。

問 1 ①エジソンのドキュメンタリーを消せなかったのは「おもしろかった」からだと考えられるので、(ウ) fascinating。②エジソンは電球を「発明した」のではなく、「実用的なものにした」とあるので、(エ) improved。③hard working, took a lot of effort and persistence などの意味から考えても、V + oneself to ~という語法から考えても(ア) devoted。

問 2 (3)「エマはインターネットがなければ彼女の生活はどうにもならないと考えている」はエマの 5 番目の発言を参照。(5)「ルークとエマは二人とも、朝会話する前にインターネットを何回も利用した」はエマの 5 番目の発言とルークの 5 番目の発言を参照。

問 3 私たちの生活を変えた発明を一つ挙げ、私たちの生活がどのように変わったかを英語で説明する、自由英作文問題。

本文中で、電球、インターネット、飛行機が述べられているので、それ以外を挙げる。文字、印刷術、自動車、テレビ、電子辞書など選択肢は広いので、自分が述べやすいものを挙げればよいが、いずれの発明もあるのが当然と考えていると、思い浮かびづらいかもしれない。テーマとしては頻出なので、普段から自由英作文の練習をしているかが試される問題である。どうしても思い浮かばない場合は、本文中で挙げられている飛行機をヒントにして、乗り物を思い浮かべ、自動車、ロケット、潜水艦などと連想していく手段もある。解答例では電話と眼鏡について説明した。

#### 【大問分析Ⅳ】

出典は沢木耕太郎「絵馬の向こう側」の一部を変更したもの。筆者はスポーツや旅行をテーマとする名エッセイスト。課題文は、外国旅行をしなくなった若者に外国旅行の意義を知らせる「檄」文の執筆依頼を受けた筆者が、執筆を断っている理由を述べた内容である。現代の若者にとって課題となる事柄を扱っている点では、昨年の問題と類似した課題文の選択になっている。

設問は下線部(A),(B)2箇所の英訳。

どちらも構文的には複雑な表現をもとめている訳ではないが、いくつか細かい語彙の選択に悩ませられるところがある。とくに「偉そうな〈叱咤激励〉が鬱陶しい」という部分は工夫が問われる。単語の一対一対応にこだわっていると行き詰まる受験生もいるだろう。それぞれの語を柔軟に捉え直すことで趣旨を生かす表現ができることが望ましい。たとえば〈叱咤激励〉なら、「強い励まし」とみなして **strong encouragement** とすればいい。形容詞が思い浮かばなければ、**encouragement** だけでもいい。「鬱陶しい」は、文脈上は抵抗感を示している意味合いなので、**annoying, irritating, unpleasant, troublesome** くらいでいい。

それぞれの書き出し、「ひとつには」と「もうひとつ」は理由について述べていることを踏まえ、**One reason, Another reason** を用いる必要がある。より用心深くするなら、その後に「執筆依頼を拒否する」という内容を盛り込んでもいい。ともかく、部分英訳とはいえ、全体の趣旨や文脈を踏まえて適切に言葉を補える力も問われている。

(B)に「近いところ」と「遠いところ」という言葉がある。関心の方向の変化について述べているわけなので、心理的な遠近感で捉える表現と物理的な距離感で捉える表現のどちらでも表現できる。心理的な場合は、**familiar** と **unfamiliar** か **foreign**、物理的な場合は、**nearby** と **distant** か **far** という形容詞を用いることになる。日本語で同じ言葉遣いであっても、文の趣旨によっては複数の解釈の可能性があるということである。

英作文は単語テストではない。語彙力はもちろん大切ではあるが、特定の内容や語句を趣旨から外れない幅で捉え直して表現する柔軟な判断力も実は問われている。対策としては、英文読解の勉強を英作文力の増強に役立てる工夫もある。とくに現代の深刻な問題や若者を巡る内容の文を読んでいるときには、印象深い観点が示されている部分についてはそのまま暗記しておくに役立つ。また、英英辞典を利用する習慣があると、抽象語でも噛み砕いた定義がしてあるので、表現の意図を柔軟に捉え直す力が自然に身につくことがある。また、普段から身近な環境や状況を英語に直してみる心がけも意外に表現力を養うことに通ずる。自分にできることを見だし、それを徹底していくことがなにより大切だ。

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

【文系】

文学部	60%
教育学部	60%
法学部	65%
経済学部	60%

【理系】

理学部	70%	歯学部	70%
工学部	70%	薬学部	70%
医学部	75%	農学部	70%
保健／看護	60%		
〃 検査	60%		
〃 放射線	60%		

3 来年受験する生徒へのアドバイス

英語を理解する能力はもちろんだが、理解した内容を他者にわかりやすく伝えるための日本語能力を磨くことが極めて重要だ。

長い下線部を和訳するためには、そもそも長い日本語を書くことに慣れている必要がある。修飾構造や主述関係に矛盾がないかを自己点検、修正する能力も養わなければならない。指導者の添削を定期的に受けるのがよい。

説明問題を攻略するためには、単語帳や辞書に載っている訳例を丸暗記しただけの知識では不十分だ。筆者は何を伝えようとしてその単語や構文を用いているのかを考える習慣を身につけよう。

英作文を攻略するためには、自然な文体の日本語を英語にする能力が必要だ。その前段階として、日本語を別の日本語にする練習を行おう。同じことを表現するにしても様々な捉え方、様々ないい方がある、という視点で常日頃から学習する必要がある。